

2018年11月6日掲載

「モノの見方と両用性」

「ママ、『あたり』だって!」。先日、チョコレートを食べていた息子が私にこう話しかけた。

パッケージをよく見ると「1枚あたり68キロカロリー」と書いてあった。漢字が読めない息子は平仮名だけ読んで何かが当たったと思ったようだ。それぞれの立ち位置でのモノの見方は面白いと思った。

デュアルユースという言葉をご存じだろうか。辞書を引くと「両用の、二通りの」などと出てくる。特に民生用と軍事用のどちらにも利用できることをいう。例えば無人運転の自動車は、どんな人でも気軽に安全に操作できるメリットがある。一方で、戦争で兵器に使われてしまう可能性もある。同じモノでも、目的によって使われ方が全く変わってしまうのだ。

ある企業では、大きいイベントなどがある場合、必ず複数の店に弁当を注文するという。同じ店に頼んだ方が安く済み、手間もかからないと思うが、「食中毒が起きた場合、誰も対応できなくなってしまう」という理由でさまざまな店に注文するらしい。

大学で学生に自己分析をしてもらおうと「短所はあるけど長所はない」という答えが返ってくることもある。短所と長所は紙一重だ。例えば「大ざっぱ」という短所は、「おおらか」という長所にもなるはず。

同じモノを見ていても、それをどう捉えるかは自分次第である。今求められているのは、創り出したい未来という観点から、物事を捉えることではないだろうか。

(毎日新聞より)